



12月5日

地域の少年剣道を支え続け全国表彰

市内の青少年を対象に剣道を指導している恵那剣友会少年部が、全日本剣道連盟表彰「少年剣道教育奨励賞」を受賞しました。この賞は少年剣道の指導面で草の根的に活動を続けている団体を表彰するもので、市内からは初めての全国表彰となりました。

同会の指導者をしている大内武志さんは「全ての子を、わが子と思って指導しています。私が指導する立場ですが、子どもたちに教えられることばかりです」と話し「今回の受賞は、これまでの会長や役員、保護者の皆さんのおかげ。この賞に負けないよう活動を続けていきたいです」と意気込みました。



12月2日

ゲタルが飛騨・美濃すぐれものに認定

着物のクリーニングなどを行う嵯峨乃や（武並町）が制作した「GETALS」が、今年度の飛騨・美濃すぐれものに認定され、代表の大森将人さんが報告に訪れました。

飛騨・美濃すぐれものとは、百貨店や専門店のバイヤーやメディア関係者などによる審査を経て選ばれ、県のブランディングにつながる優れた商品です。

ゲタルは5本指のげたで、げたとサンダルを合わせたオリジナルの名称。平成25年に開発し、年々改良を加えてきました。大森さんは「お客様に喜んで使ってもらっています。これを機に、ますます岐阜の魅力を発信していきたいです」と話しました。



11月21日

野球場の整備に役立てて寄付金贈呈

まきがね公園野球場の整備に役立ててほしいと、協和ダンボール株式会社から市に100万円の寄付がありました。

まきがね公園野球場は、平成12年にスコアボードが故障。翌年に撤去され、それ以降はスコアボードがありません。

代表取締役の高木良直さんは「会社設立50年が過ぎ、市に何か恩返しできることはないか模索していました。野球場にスコアボードが欲しいという声を以前から聞いていたので、設置に役立ててもらえたら」と話しました。

市では、寄付金を活用し、LED電光掲示板のスコアボードを設置する予定です。



11月15日

伝統文化を引き継ぐ活動として表彰

申原歌舞伎保存会が、県伝統文化継承者表彰を受賞しました。この表彰は、伝統文化の保存・継承に尽力している個人や団体をたたえるものです。

申原歌舞伎保存会は、昭和48年に結成。地元での公演の他、近隣団体との交流や各種大会に出演してきました。昭和56年からは、申原小学校で子どもたちに指導しています。こうした長年の活動が認められ、功労者として表彰を受けました。

会長の堀新三さんは「保存会のみんなが頑張ってきた結果。これを糧に活動を広げ、地域の歌舞伎を引っ張っていきたい」と喜びを語りました。



12月5日

ささゆりの湯の来場者が2百万人に

くしはら温泉ささゆりの湯の来場者が200万人に到達しました。

記念すべき200万人目は、愛知県春日井市在住の西村克治さん、正子さん夫妻。西村さんは「自宅水道管工事をしていて、騒音を逃れようと訪問予定を早めて訪れたところでした」と驚いた様子。「友達とツーリングで来たり、妻と来たり。温泉と買い物を楽しみに、月2、3回来ています」と記念品を手に笑顔で話しました。

ささゆりの湯は平成14年にオープン。平成29年から露天風呂の増設やレストランの増席などの工事を行い、平成30年4月にリニューアルしました。



12月3日

東中の防災活動が文部科学大臣表彰

恵那東中学校が文部科学大臣表彰「全国学校保健及び学校安全表彰」を受賞しました。同校では、平成30年から恵那東防災リーダー実行委員会を組織し、研修などを通じて全校生徒の防災意識を高めています。今年9月に行われた市防災訓練では、大井町自主防災隊と協力して避難所設置運営訓練を行いました。このような地域と連携した活動が評価され、受賞となりました。

この日は、実行委員長の可知映羽さんと防災士の岩井慶次さんが、受賞の喜びを市長に報告。可知さんは「自分たちの活動が認められてうれしいです」とほほ笑みしました。



12月2日

手作り公共事業が農林水産大臣表彰

えな土地改良区が第3回インフラメンテナンス大賞で、農林水産大臣賞を受賞しました。これは、道路や水道といった社会資本を維持するための優れた取り組みを表彰し、メンテナンス産業の活性化を図るものです。

えな土地改良区は、平成15年から重機の運転資格がある組合員などを組織化し、自分たちで舗装するなどして維持管理費を削減。また、恵那農業高等学校環境科学科と協力し、高校生が設計や測量、舗装工事などの実習ができるような学びの場を提供してきました。この手作り公共事業が高く評価され、今回の受賞となりました。



11月19日

チームワークで科学の甲子園全国大会

第7回科学の甲子園ジュニア県大会で、恵那西中学校の2年生チームが見事優勝し、報告に訪れました。

科学の甲子園ジュニアは、中学生が科学の思考力と技能を競い合う大会。多くの子に科学を好きになってもらい、探究心や創造性に優れた人材を育成しようと開催されています。

チーム代表の有泉七槻さんは「県大会では、ものづくり部門と実験部門のそれぞれで、協力して取り組むことができた。全国大会でもチームワークを駆使し、優勝できるように頑張ります」と意気込みを語りました。